

パネルディスカッション 9：在宅介護の継続と充実のために

～利用者の生活支援のための多職種連携の在り方～

演題名	在宅介護の継続と充実のために～理学療法士としての協働とは～
------------	-------------------------------

概要

日本国語大辞典によると“連携（cooperation）”とは、互いに連絡をとりながら手をたずさえて物事を行なうことと記されている。訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）においてこれを読み解くと、利用者さんを中心としたサービス提供者及び介助者がお互いに連絡を密にとりながら訪問をしていくことと解釈できる。しかしながら、古今東西、様々なステージにおいて連携の必要性を幾度となく議論されてきたものの十分な解決策は見当たらない。規律を履行することだけに終始してはいないだろうか？有効にその仕組みが機能しているのかと考えたことはあるだろうか？もっと連携を促進するための努力はしているだろうか？と私自身も反省の念が絶えない。現場からは、時間がない！との悲鳴が聞こえてきそうだが、そもそも何のための訪問であろうか？目的は何なのか？を今一度考えなければいけないであろう。答えは一つ、利用者の自立支援と介護負担の軽減、そして意味ある生活再建である。

そこで、連携よりも一歩進んだ概念として“協働”が注目されている。協働（coproduction）とは、複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することをいう。

協働概念を構成する要素としては、

- ・ 目標の共有化
- ・ 主体間の並立、対等性の確保
- ・ 補完性の確保
- ・ 責任の共有
- ・ 求同存（尊）異の原則確立、が挙げられる。

それでは、理学療法士として訪問介護の方々とどのように協働作業を取り組んでいったら良いのだろうか？そのあたりの課題と方策について考えていきたい。